

Kizuna

金沢星稜大学同窓会誌

TSUNAGARI Magazine

2023/8
Vol.33

同窓会会員
現在
24,529名

特集

地域課題を解決し、
地域に活力を生み出す人材の育成を目指して
2024年4月、経済学部に
地域システム学科を開設

活躍する同窓生

川尻 洋光さん(経済学部1部19期生)／瀬戸 和栄さん(経済学部1部21期生)
／高畠 菜那さん(人文学部3期生)

学歌新録音盤完成

2023年度理事総会・懇親会開催報告

市民公開講座2023年度プログラム

学園創立90周年 大学企画

富山支部活動報告

新理事交流会報告

表紙写真／北國フォトクイーン
グランプリ 小坂桃萌さん(右)人文学部3年次
準グランプリ 田内杏奈さん(左)経済学部1年次

地域課題を解決し、地域に活力を生み出す人材の育成を目指して 2024年4月、経済学部に地域システム学科を開設

来年4月、経済学部に地域システム学科を開設します。DX（デジタルトランスフォーメーション）を活用して、地域創生や新しい地域価値の協創に取り組み、持続可能な社会づくりのリーダーとなる人材の育成を目指します。副学長の新広昭教授に地域システム学科の特徴や魅力などをうかがいました。

DXを活用・分析して 持続可能な社会づくりに貢献

一新学科の開設に至った経緯や特徴を教えてください。

急速に進む少子高齢化や長期の経済低迷、非正規雇用の増加など日本は、いわゆる「失われた30年」からなかなか脱却できていません。日本は地域の集合体であり、地域から日本を元気にしていくことが今、求められています。政府の掲げる「デジタル田園都市国家構想」では、デジタルの力を活用して、地方創生を加速化させ、全国どこにいても誰もが便利で快適に暮らせる社会を目指しています。新しく誕生する「地域システム学科」では、このような時代ニーズを受け、地域の課題をDX（デジタルトランスフォーメーション）で見い出し、地域セクター（住民や企業、自治体など）と協働しながら政策提言までつなげていきたいと思っております。



新 広昭／プロフィール

石川県庁で気候変動対策、生物文化多様性などの環境行政に従事する。2001年金沢大学社会環境科学研究科博士課程（後期課程）修了、博士（社会環境科学）。2016年より金沢星稜大学経済学部教授、2018年より経済学部長、2022年度より副学長。研究分野は地域環境経済、公共経済学。最近はSDGs×地域創生、ESG投資などに取り組む。著書に『はじめて学ぶ生物文化多様性』（共著、講談社）。

具合的には「SDGs」「地域創生」「地域のDX化」の3つがキーワードになり、内閣府が提供する地域経済分析システム(RESAS)や数理・データサイエンス・AI教育プログラム(MDASH)などのデータをもとに、まず地域の現状を把握した上で、地域課題をデータ分析し、解決に取り組み、持続可能な社会づくりに貢献できる、次世代のリーダーを育てたいと思っております。

1年次から地域に出て フィールド活動に参加

従来はデータ収集が授業の目的となっていたこともありましたが、今はAI（人工知能）やDXの進展でさまざまなデータが比較的簡単に入手でき、データの背後にある現実の姿を読み取る、その力がとても重要になっています。

学びの領域は、①地域経済・地域データ分析系 ②公共政策系 ③観光・地域経営系の3つの系統で授業を選択履修しながら、実践的でバランスのとれた専門知識を幅広く身に付けられます。とりわけ、「観光は地方創生の切り札」と政府も注目しており、訪日外国人から関心の高い文化都市・金沢にキャンパスを置く本学としても、世界農業遺産に認定された能登の里山里海や世界ジオパークの白山手取川ジオパーク、隣接する富山県、福井県なども含めたさまざまなフィールド活動を展開していくらと思っております。

学びの特色として、経済学・経営学の基礎知識やデータ収集力、分析手法を学ぶだけでなく、授業で身に付けた知識とスキルをもとに、1年次から実際、地域の自治体や企業などに出向いてフィールド活動を取り組むところにも大きな特長があります。また、座学とフィールド活動を往復することで、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力などより実践的な社会で役立つ力を養います。

企業からも高い評価の 協創インターンシップ

一地方自治体や企業との連携にも積極的に取り組まれてい

ますね。

すでに金沢市や白山市、七尾市、珠洲市、穴水町、能登町と包括連携協定を結んでおり、まさに地域システム学科の教育研究の中心となる地域のフィールドを舞台に地域課題の解決や新たな価値を創造できる人材を地域とともに育成していきたいと思っております。他にも、石川県中小企業家同友会や石川県信用金庫協会とも連携協定を結び、企業の協力を得ながら地域課題の解決策を考える協創インターンシップなどにも取り組んでいます。受け入れ企業からは「地域社会での会社の役割を再認識できた」「会社の進むべき方向性が見えた」など喜びの声をいただき、受け入れを希望される企業が増えていきます。

SDGsに学生と取り組む 森本商店街が話題に

一商店街と大学の取り組みも話題となっていますね。

金沢市の森本商店街とは、2年前に「SDGs商店街としてアピールしたい」と金沢星稜大学に働きかけがあり、私のゼミの学生が各店舗にインタビュー調査を行い、事業内容やSDGsとの関係性を整理し、店舗ごとにSDGs宣言を取り入れたPRポスターを作成しました。この取り組みは、新聞やテレビ、ラジオでも報道され、石川テレビのアプリを使った森本商店街SDGsクイズラリーの実現にもつながりました。昨年末から3週間にわたり開催された同SDGsクイズラリーには、1,800人を超す方が参加し、森本商店街の魅力やSDGsの社会的な役割を多くの方に知っていただく機会となりました。

このような活動はこれまでならば2年次からのゼミが対象となっていましたが、地域システム学科に入学すれば、1年次から正課として取り組むことができます。

公務員やIT関連企業、金融機関など 幅広い職種で即戦力として活躍を期待

一卒業後、どのような分野で活躍を期待されていますか。

地域システム学科で4年間学んだ知識と経験は、公務員や公的機関はもちろん、交通・観光関連企業、IT関連企業をはじめ、コンサルティング力が求められている地域金融機関などでも生かせると思っております。何よりDXで課題を発見し、分析、解決策を考える力を身に付ければ、どの企業や組織でもきっと即戦力として活躍できるはずです。

プレゼンと小論文の 年内受験で15名を選抜

一最後に同窓生へのメッセージをお願いします。

高校訪問の際に新学科の説明をすると、本学の伝統ある経済学部内の学科ということでとても安心感を持っていただいております。地域システム学科では、事前エントリー審査に生徒が出願できる「総合型選抜プラス1方式」を年内に実施します。学力よりも生徒のやる気を重視し、プレゼンテーションと小論文で定員85名のうち15名を選抜する予定です。

ぜひお子さんやご親戚、お知り合いなどに新学科の開設をお知らせいただけたらと思っております。



活躍する同窓生

小西ゼミで人生が変わった



明祥株式会社
代表取締役 社長執行役員
川尻 洋光
経済学部 1部 19期生

大学3年の時、マーケティング総論を専門とする小西ゼミに入ったことが人生の大きなターニングポイントとなりました。ゼミ生の推薦で副代表に選出され、小西滋人先生と幹部が寝食を共にしながら行うオリエンテーションで「君は企画をやりなさい」と言われたことが今でもすごく印象に残っていて、その後の自分の生き方の指針になりました。

大学1、2年の時は、学校に真面目に通って、しっかり単位を取っていたものの、夢や目標もない、そんな学生でした。それがゼミで副代表となると、自分の役割を果たすために、夏は山中湖で東京経済大学と合同合宿、冬はダンスパーティーの開催、他にも富山大学のマーケティング大会の参加やボウリング大会、星稜女子短期大学の学生との交流などゼミ生と楽しみながら次々と新しいことにチャレンジしたことがいい思い出となっています。ダンスパーティーを企画した時には、いざダンスの練習をしようと思ったら、ダンスができる人がゼミ生や学内の知り合いにいなくて、慌てて金沢大学の女性にコーチをお願いしたいこともありました(笑)。

小西先生はいつもゼミ生をそっと温かく見守ってくれ、やりたいことを後押ししてくれていました。小西先生には、自分と同い年の息子さんがいることもあるって、事あるごとに「君たちは息子同然」と言っていたので、自分にとって父のような存在でもあります。山中湖の合宿に車で向かう途中、志賀高原で小西先生をゴルフデビューさせた時の先生の嬉しそうな笑顔は今も鮮明に記憶しています。

就職するにあたって、衣食住など人間にとって大事なものを考えた時に、「これからは医療だ」と思い、今の会社の前身となる明希株式会社に入社しました。今思えば当然のことなのですが、入社後にいろいろ会社の問題に気づいても、入社年数が浅いとなかなか聞き入れてもらえず、とにかく6年間は

営業でがむしゃらに仕事に打ち込みました。努力が実を結び、成績も良かったので、その後本社に配属となり、現会長のもとで8年間、社内改革や責任ある仕事を次々と任せさせていただき、随分鍛えられました(笑)。「これ頼むよ」と言われて、トイレから戻ってくると「できたか」と聞かれるような人だったので、スピードの大切さを叩き込まれました。ちょうど日本にパソコンが一気に普及し、顧客満足(CS カスタマー・サティスファクション)の重要性も注目される時代となっていましたこともあり、社会の変化のスピードも早くなり、会社もお客様のご要望にいち早く応えるために必死でした。

コンサルティング部門や営業推進部の体制の確立、マーケットリサーチを経営に導入したりと新しいことに取り組む際には、小西ゼミで培った経験が生き、最後まで粘り強くやり遂げることができました。その後、福井に2年間、富山に6年間勤務し、福井県、富山県のシェアを拡大できたことは大きな自信になりました。それでもマーケティング2級や日本医業経営コンサルタント協会の試験など会社やお得意様から求められる資格を取得するには、結構苦労しました。マーケティングの基礎は、一応大学時代に学んでいたとはいえ、業後に睡眠時間を削って、学生時代にもなかつたような集中力で猛勉強しました(笑)。



実は弊社では金沢経済大学と金沢星稜大学の卒業生が57名(男性51名、女性6名)も在籍し、各部署で活躍しています。「誠実にして社会に役立つ人間の育成」を実践されている稻置学園にこの場をお借りして感謝申し上げます。

これまでの人生を振り返ってみて言えることは、若い人には困難にぶつかったら険しい道を選んでほしいです。厳しいところを目指すことで、新しいものができる、大きな達成感も得られると思います。何より挑戦する人生の方が明るく、断然楽しいですよ。



日本海リーグ
代表取締役

瀬戸 和栄

経済学部 1部 21期生

私が大学を卒業してから32年
が経ちました。時代は"バブル"卒
業して勤めた金融機関の入行試
験の面接官に「バブルの崩壊の
原因は何だと思われますか?」

と質問され、学生時代硬式野球
部に所属し講義には真面目に
出席するも、頭の中は"野球"で
一杯で、どうやったら勝てるかど
うやったら良い集団になれるか
とそんなことばかり考えていま
した。恥ずかしながら、バブルの時期

も知らずバブルが崩壊したのも知らず、「申し訳ありません、勉
強不足で分かりません」と大きな声で答えたのを覚えています。

そんな私ですが、銀行員となり10年が過ぎお客様に必要と
された時の充実感等仕事の面白みを感じ始めた頃ではありま
したが、どうしても"野球"への思いを断ち切れず、33歳にして
高校野球の指導者へと転進しました。毎日生活に変化があり、
高校生と真剣に向き合い成長を見る時間はとても有意義なも
のでした。

現在の私はといいますと、高校野球から離れ、大学の先輩

であります端保聰石川ミリオンスターズ社長(大学同窓会副
会長)に請われ、今年設立されたIPBL(日本独立リーグ野球機
構)に属する、日本海リーグの代表を務めることとなりました。

少し日本海リーグについてご説明させていただきますと、富
山サンダーバーズと石川ミリオンスターズの2チームが属し、
年間40試合とNPB(日本プロ野球機構)ファームチームとの
交流戦を数試合行う野球独立リーグで、NPB・MLBプレイヤー
養成をパーカスとしています。また、北陸のスポーツ文化醸成
や活性化に少しでも貢献出来ればと思っています。

是非、野球場に足を運んでNPBを目指す選手の真剣プレー
を見て下さい。

言うまでもなく私の原点は大学の4年間にあります。人生の
ターニングポイントは幾度かありました。その節目々では学
生時代を思
い起こし、時
には城塙山グ
ランドに足を
運び、自分
の気持
ちを奮
い立たせてお
ります。



フリーアナウンサー
(現NHK金沢放送局キャスター)

高畠 菜那

人文学部 3期生

2022年春に金沢星稜大学人
文学部を卒業して社会人2年目
になりました。

現在は、NHK金沢放送局で
キャスターとしてお仕事をして
います。平日18時10分からの
「かがのとイブニング」出演、そ
れに伴う取材やロケ、TVやラジ
オのニュース、イベント司会な
ど、毎日たくさんの人にお会い、
学び多き日々を送っています。

大学で過ごした4年間は、大
変濃い時間でした。

1年生の時には、アイルランド留学を経験しました。驚いた
のは、日本の文化に興味を持っている人が想像以上に多いこ
とです。独学で日本語を勉強している人、日本のアニメや歌手
について私以上に知り尽くしている人もいました。

初めて、日本を外の世界から客観的にみたことで、母国の文化
や自分自身のアイデンティティに誇りを持つ素晴らしい経験

して同時にそれらが相手をリスペクトする心へと繋がることを
学びました。

また、日本文化や金沢を知つてもらうために、自らイベント
を企画して開催しました。実際に、金沢へ留学したり遊びに来
てくれたりする友達もいて、人との出会いがその後に影響をも
たらしたり、何かが変わるきっかけになったりする素晴らしい
を感じています。

ゼミでは「グローバル・イングリッシュ」世界共通語としての
英語の多様性や重要性を学びました。

「正しい英語を話さなければいけない」という概念は、自分
を殻に閉じ込めて、周りの世界と壁を作ってしまいます。

社会人になった今も、「正しいこと」を決めつけたり固定概念
にとらわれたりせず、柔軟に対応できるよう努めています。

大学生活の半分は、コロナ禍で思うように過ごすことができ
ず、もどかしさを感じる時もありました。それでも前向きに頑張
れたのは、先生方、まわりの方々のサポートがあったからだ
と思います。

これからも、感謝の気持ちを忘れず、地元に貢献できるよう
仕事に励んでいきたいです。



金沢星稜大学学歌 新録音盤の贈呈

2月10日（金）、稻置学園・金沢星稜大学・同窓会役員懇談会がホテル金沢にて開催されました。稻置理事長をはじめ大久保学長、副学長、事務局副局長と同窓会役員あわせて13名が参加しました。

今回の懇談会において、大学同窓会から金沢星稜大学学歌「白山の虚空を翔ける」の旧音源を現代のアレンジに編曲し直した新録音盤が金沢星稜大学に贈呈されました。学生にとどめても同窓生にとどめても金沢星稜大学の一員であるというアイデンティティを確認するきっかけとして、今回の吹奏楽団演奏にあわせた学歌が、いろいろな場面で披露されることを願っております。

同窓会HPでも試聴出来ますのでぜひお聞きください。



金沢星稜大学学歌

『白山の虚空を翔ける』

作詞
黒坂
富治

一
白山の
虚空を翔ける
鷺のあり
かの鷺の
翼ばねの張りの
若き学徒の
絆り世間こそは
翔ける
清民こそは
われらが願望
翔けよ天翔け
理想のかなた
いや新しき
時代をめざす

日時／2023年6月24日（土）17時～
場所／ホテル金沢

2023年度 理事会・懇親会が開催されました

理事会では、次の議案について滞りなく審議・承認されました。

《議案》

- 2022年度事業報告・決算報告・監査報告
- 2023年度事業（案）・事業予算（案）・デジタル施策（案）説明
- 書記職追加に伴う会則改正（案）
- 新常任理事・新理事（案）
- 支部規程改正（案）

理事会終了後、懇親会が開催されました。

上野会長のあいさつの後、来賓あいさつとして、稻置理事長、大久保学長からお言葉を頂戴しました。

小嶋同窓会相談役の乾杯の御発声を合図に、大学の先生方と同窓生との親睦が深まり、なごやかな懇親会となりました。



《報告事項》

- 白山支部解散報告
- 学生褒章者リスト

2023年度「市民講座」がスタート

金沢星稜大学では地域に開かれた大学として、教育と研究の成果を地域社会に還元するために公開講座等を通して地域の皆様に対し、広く学びの場を提供しています。

その活動の一つが「市民講座」で、年間を通して本学教員が身近な事例や最新の情報などを取り上げてお話しします。

■期間：2023年9月16日（土）～2023年12月9日（土）

[入場無料] [申込不要] ※希望する講座を自由に受講ください。

■会場：金沢星稜大学 本館A51 講義室他

■主催：金沢星稜大学総合研究所

■日程

各講座開催日の1週間前をお申込みの締切とさせていただきます。



会場、オンラインどちらでの参加も可能です。開催について変更が生じた場合はホームページでお知らせします。

2023年 9月16日（土）13:30～15:00 オリンピック・パラリンピックの光と影

講師：笠原 亜希子 講師

10月 7日（土）13:30～15:00 大乗仏教の秘密

講師：バイヤー アヒム 教授

10月 21日（土）13:30～15:00 「情報の海」に溺れないための情報リテラシー

講師：山本 輝太郎 講師

11月 4日（土）13:30～15:00 マイクロファイナンスと女性の貧困

講師：木村 正信 教授

11月 11日（土）13:30～15:00 子どもに触れることの意味—『手ぶくろを貰いに』の読みあい会—

講師：三好 伸子 教授

11月 25日（土）13:30～15:00 ドラッカー入門セルフマネジメント編

講師：岸本 秀一 教授

12月 9日（土）13:30～15:00 通訳ってどんな仕事？—「むかし」と「今」そして「未来」

講師：横野 成美 教授

一部会場が異なりますので、各講座の会場をご確認ください。※駐車場台数に限りがございます。

【お問い合わせ】金沢星稜大学総合研究所 〒920-8620 金沢市御所町丑10番地1 TEL 076-253-3984 FAX 076-253-3998 E-mail ina-soumu@seiryo.jp (HPより)

豊かな人生を送るには 国語力と読書習慣が大切です

絵本や紙芝居を活用し、作品の世界観を大切にしたフィールド活動が地域の子どもから大人まで幅広い支持を集めます。馬場ゼミナール。平成元（1989）年から前身の金沢経済大学で教鞭をとられている人間科学部の馬場治教授に学生との思い出や教育で心がけていること、ユニークなゼミの取り組みなどたっぷり語っていただきました。



馬場 治 教授

（ばば・はじむ）1959年三重県津市生まれ。1987年皇學館大学大学院文学研究科博士後期課程満期退学。1989年金沢経済大学に赴任。専任講師、助教授を経て、2007年から金沢星稜大学人間科学部教授。専門は日本語学・日本文学。趣味は文学散歩と俳句作り。

多彩な学外実習で 学生と距離が縮まる

—これまでを振り返ってみていかがですか。

今年で勤続35年になりますが、前半は経済学部の一般教養「文学」の担当で大講義や基礎ゼミナールを、後半は人間科学部こども学科の国語系や保育内容（言葉）といった専門科目や専門ゼミナールが加わり、小学校教員や保育士を目指す学生を対象とした少人数形式の授業が多くなりました。また、キャンパス外での教育実習や地域でのフィールド活動など、学生との距離がより近くなりました。

フィールド活動の原点は 留学生の絵本読み聞かせ

—学生と思い出に残っていることはありますか。

経済学部時代の基礎ゼミに中国人留学生で内モンゴル自治区出身の学生がいました。「モンゴルの歴史と文化を金沢でも伝えたい」との希望から、金沢21世紀美術館で『スーコの白い馬』（福音館書店訳・大塚勇三 絵・赤羽末吉）の絵本読み聞かせを行いました。日本語が堪能なうえ、有名な通過儀礼ナーダム祭の経験者で本場仕込みの説得力があり、聴衆の心を揺り動かし、モンゴルの世界に引き込みました。これが後に、夏休み恒例のフィールド活動「親と子の絵本ワールド」に参画する契機となりました。

—教育で大切にされてきたことは？

あらゆる知識や情操の根源的素材である国語と言葉について考え、人間にとって言葉とは？「言葉による見方・考え方」を働かせる言語活動とは？を常に模索してきました。特に、H・リードの学説「先生の声は教具である」に賛同し、フィールドで絵本や紙芝居を用いた言語活動を行うことにより、自分の声



絵本『スーコの白い馬』の読み聞かせを行う中国人留学生

を客観的に認識できるよう工夫してきました。さらに、社会生活に必要な国語力と生涯教育としての読書習慣を身に付けることが豊かな人生を送るために大切だと指導しています。また、国語教科書の収録作品だけでなく、「金沢ふるさと学習」に役立つ教材の発掘と活用にも力を入れています。例えば、尾張町には文豪・泉鏡花が生まれ育った場所と俳聖・松尾芭蕉が『奥の細道』行脚の帰りに滞在した場所などがあり、金沢ゆかりの名作の舞台が身近にある恵まれた環境がこのまちの魅力です。現地を探訪すると当時の風情を感じます。

仲間と心が一つになる 地域で人気の紙芝居

—ゼミの特徴と恒例行事について教えてください。

紙芝居の役割読みに特徴があります。物語を最初から最後まで一人が読み通すのではなく、声質によって地の文を読む進行役のナレーター、登場人物の会話文を読む配役といった具合に選びます。練習を重ねるにつれ登場人物は躍動し、聴衆へ臨場感ある場面を再現できます。また、作品世界に感情移入することで想像力が、朗読上演することで表現力が培われます。何より全員のチームワークが大切なので、仲間との気心も通じ自然と仲良くなります。

コロナ禍で中断していましたが、石川県立図書館での「クリスマスの集い」など、昨年後半から徐々に地域での対面行事を再開しています。紙芝居LIVEは、来場してくれた子どもたちの笑顔が見られることで達成感を味わえ、自分の声に自信が持てるようになります。

—最後に卒業生にメッセージをお願いします。

戦争の影が忍び寄る不穏な世界情勢ですが、宮澤賢治の言葉「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」（農民芸術概論綱要）を胸に平和主義で各自の持ち場を守り、周囲を幸福にしてください。



馬場ゼミの学生が紙芝居と絵本を子どもたちに読み聞かせるクリスマスイベント。OGが子どもをつれて参加してくれたことも

90th Anniversary

稻置学園は 2022 年 10 月 5 日（水）に創立 90 周年を迎えました。
学園創立 90 周年の節目を祝い、記念式典・記念講演をはじめ、設置校ごとに企画・イベントを実施いたしました。



【企画名】大学生のアクティビティ・アーカイブ制作

金沢星稜大学では過去と現在の記録を集めて未来へのメッセージとなる作品群を制作しました。学生たちのさまざまなゼミ活動、クラブやサークル活動の様子、学生たちの授業外の時間の過ごし方などを紹介しています。講義室での座学に限らない、実技、実習、フィールドワーク、地域と連携したゼミナールでのプロジェクト実践など、本学で行われる多様で能動的な学生たちの学びの様子をお届けします。映像コンテンツは、以下の QR コードよりご覧いただけます。



富山県支部活動報告

2022 年 9 月 17 日（土）富山市 パレプラン高志会館にて金沢星稜大学学長 大久保先生に「幻の能登駅伝」について講義いただきました。本講義は当初 2020 年の開催を計画していましたが新型コロナ感染拡大の為、役員のみでしたがようやく開催することが出来ました。

富山県支部では 2023 年 7 月 15 日（土）富山県射水市大門総合会館において定期総会を開催しました。令和 4 年度事業報告、会計報告、令和 5 年度事業予定、計画（案）が協議され承認されました。

2023 年 11 月 4 日（土）富山県射水市（あいの風とやま鉄道 小杉駅前）松原屋にて、講演会、懇親会を行います。今年も金沢星稜大学学長 大久保英哲先生のご講演です。皆様のご参加、お待ちしております。



新理事との交流会を開催しました

4 月 22 日（土）新理事歓迎交流会を開催しました。幅広い年代の方々に出席していただきよい機会となりました。本会では各世代間の充実・更なる発展を目指すため参加していただける同窓生を随時募集しております。



金沢星稜大学 デジタル施策 (DXの推進) Kizuna connect! (仮称) 準備中

当会では同窓生の皆様にイベントの告知やお知らせ、ご案内等デジタルを活用した情報配信の構築に今後取り組んでいきます。より身近で便利な同窓会活動を目的に全世代が交流できる場の提供を目指しています。詳しくは次回 kizuna または HP などで今後ご紹介していきますのでよろしくお願ひいたします（今年度の流星祭の同窓会ブースにて説明コーナーを設ける予定です）。

（広報委員会 藤弥隆俊）

2名の学生が北國フォトクイーンに！

本学より2名の学生が、北國新聞社の主要行事でアシスタントや北國写真連盟の撮影会でモデルを務める「北國フォトクイーン」として選出されました。任期1年間で石川県の魅力を全国へ、そして世界へ発信できるよう活躍に期待します。



【グランプリ受賞】
小坂 桃萌
(人文学部国際文化学科3年次)

海外留学を経験して、改めて母国である日本の魅力に気づくことができました。特に地元である石川県には、伝統的な文化や芸能が盛んであること、食べ物が新鮮で美味しいことなど世界に発信できることが多くあると思っております。北國フォトクイーンでの活動を通して、コロナ禍で塞ぎ込んだ地元の再生にも華を添え、貢献してまいります。



【準グランプリ受賞】
田内 杏奈
(経済学部経済学科1年次)

北國フォトクイーンの一年間の活動を通して自分自身まだ知らない石川県の魅力を知り、その魅力をたくさんの人に伝え、石川県の発展に貢献していきたいと思っています。また、自分自身の成長にもつながると考えているので、この活動を通じてコミュニケーション能力の向上など将来のキャリアに生かせるよう精進してまいります。